

目次

次回大会予告	1	幹事会活動紹介	
大会シンポジウム趣旨説明	2	「幹事のお仕事:第5回ホームページ担当」	4
国立女性教育会館に関する要望書についての報告	3	研究会活動報告	4
松山市男女共同参画条例の運用に関する 請願採択についての要請書の報告	3	お知らせ	5
		会員の著書紹介	5

*会員に送付しているペーパー版の「学会ニュース」とは内容が一部異なります

次回大会予告

会場：アピオあおもり 青森県青森市中央3-17-1 TEL. 017-732-1010/FAX. 017-732-1073

JR青森駅前3番乗場より下記行きで、15分「働く女性の家前」下車、徒歩3分
[市民病院線、横内環状線、問屋町行き、大野浜田環状線、朝日放送行き、青森公立大学行き]

シンポジウム：男女共同参画と格差社会

大会日程 1日目 6月14日(土) 13:00~16:30 (予定) シンポジウムその後総会、懇親会
2日目 6月15日(日) 10:00~12:00 (予定) 個人研究発表
13:00~15:00 (予定) ワークショップ
* 保育を予定しています。詳細は次号をご覧ください。

個人研究発表とワークショップ申し込み受付について

タイトルと発表の概要(200字程度)・発表時に使用する機材(機材は希望にそえない場合があります)を記載して、3月20日までに、ニューズレター担当の伊田久美子・木村涼子まで、メールかファックスでお申し込みください。

個人研究発表：木村涼子

ワークショップ：伊田久美子

*ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取り組みであり、個人報告とは性格の異なるものです。

*個人研究発表は、共通テーマでパネル応募も可能です。人数は3人以上とします。各報告の発表時間も公平性と質問の時間を十分とることに留意いただき、時間の配分、司会者などを申込者で設定してください。

大学院生等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生・院生・OD等、常勤職に就いておられない方には、学会より旅費の補助をします(総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です)。希望される方は、報告申込のさい、「旅費補助希望」と明記してください。



宿泊情報について

JR青森駅周辺のホテル(宿泊予約のための参考になさってください)

- スーパーホテル青森
TEL 017-723-9000 FAX 017-723-9008
シングル4,980円3ヶ月前から予約受付
- ハイパーホテル青森
TEL 017-773-3000 FAX 017-775-7373
シングル5,040円3ヶ月前から予約受付
- セントラルホテル青森
TEL 017-722-1100 FAX 017-722-1250
シングル5,800円3ヶ月前から予約受付
- ホテルJALシティ青森
TEL 017-732-2580 FAX 017-735-2584
シングル6,600～9,400円

絡先: (株)エアリンク ☎03-3340-5129 担当川島) までお問い合わせください。

■羽田空港ご出発JALシティ青森宿泊■

◇ご料金(お一人様あたり)【往復航空券・宿泊代金・朝食代金・羽田空港施設使用料を含みます】

- ・ 1名様1室利用 ¥39,900
- ・ 2名様1室利用 ¥36,800
- ・ 3名様1室利用 ¥35,900

◇フライトスケジュール

- ・ 往路JL1201羽田発07:25青森着08:45
- ・ 復路JL1208青森発17:05羽田着18:20

■伊丹空港ご出発JALシティ青森宿泊■

◇ご料金(お一人様あたり)【往復航空券・宿泊代金・朝食代金・羽田空港施設使用料を含みます】

- ・ 1名様1室利用 ¥55,900
- ・ 2名様1室利用 ¥52,800
- ・ 3名様1室利用 ¥51,900

◇フライトスケジュール

- ・ 往路JL2151伊丹発07:40青森着09:10
- ・ 復路JL2156青森発18:15伊丹着19:55

パック旅行設定について

*以下はパック旅行(航空券とホテルをセット)を設定した場合のプランを旅行会社に照会した結果、提示された暫定価格による概算です。あくまでも概算ですので、希望される方は、直接旅行会社(連

◇大会シンポジウム「男女共同参画と格差社会」趣旨説明

パネリスト: 海妻径子・皆川満寿美・小山内世喜子

コーディネーター: 船橋邦子・伊田広行

1999年に男女共同参画社会基本法が制定されたのを契機に、国際的な流れにそって、全国レベルでも、各自治体レベルにおいても、男女共同参画の理念と制度改革が徐々に進んでいる。しかし、同基本法が「男女平等法」や「性差別撤廃法」ではなく、字義上「男女共同参画」の推進を主要課題とする法律であるため、日本社会の性差別が実質的に解消に向かっているか否かについては、評価が分かれるところである。

たとえば、同基本法制定後、「女性」センターの多くは「男女共同参画」センターと名称が変えられることで、女性差別を撤廃し、真の男女平等の実現のために女性のエンパワーメントをめざしていく活動の拠点という当初の目的が不鮮明になってしまったのではという声もきかれる。また「参画」の呼び名のもとで、審議会等における女性の「参画」の割合は一定程度進んだものの、女性の新たな社会参加の大半が労働市場における非正規雇用という状況が語るように、小泉内閣以来急速に加速された新自由主義的政策の規制緩和・民営化の進行のなかで、男女間格差、女性間格差、地方間格差が顕在化している。

政府の男女共同参画政策は、この間、もっぱら少子化対策、その具体化としてのワーク・ライフ・バランス論として位置づけられている。そこでは労働時間の短縮、仕事と育児の両立支援などの重要な問題提起がある一方で、「家族の日」の制定や家族のあるべき姿の復権や親学の推進など、性別分業優先の家族政策への揺りもどしも見られる。ワーキングプアと呼ばれる絶対的貧困層の出現や母子家庭への社会保障引き下げなど、貧困問題は日本社会の直面する重要課題となりつつある。男女平等の推進の拠点であるべき男女共同参画センターにおいては、非正規雇用問題も未解決のまま指定管理者制度が導入されている。

このような状況の中、女性学や男女共同参画のメインストリーム化の功罪を含めて、政府や自治体の「男女共同参画政策」を、総合的かつ批判的に検証する必要があると思われる。とりわけ、「男女共同参画」が、格差社会の進行に歯止めをかけるためには、どのような政策と運動が有効かつ可能なのかについて、早急に検討することが求められる。

本シンポジウムは、このような問題意識のもとで真の男女平等を進める上での運動と理論の課題を明確化することを目指したい。

(船橋邦子・伊田広行)

◇国立女性教育会館に関する 要望書についての報告

日本女性学会第14期幹事会では、独立行政法人・国立女性教育会館の単独存続に向けての要望書を作成、政府関係部局に向けて送付するとともに、公表しました。以下に要望書の全文を掲載します。

独立法人・国立女性教育会館に関する要望

独立法人・国立女性教育会館は1977年創立以来、女性差別撤廃、男女平等社会の実現のための情報発信、女性(ジェンダー平等を求める人たち)のための学習の場、活動拠点として、極めて重要な役割を果たしてきました。ここで学んだ女性たちが、全国各地、自分の地域においてリーダーとして地域に大きく貢献してきたことは、30周年記念式典に参加した多くの女性たちが、その歴史の重みを物語っていたことで証明されています。また国際的な女性の人権確立運動が広がる中、女性差別撤廃条約批准国として、世界各国の女性運動・女性学・ジェンダー研究の動きと連携し、日本の中核機関としての機能を発揮してきたことを私たちは高く評価するものです。

一方、わが国の女性の政治的、経済的、社会的地位は現在もなお低く、GEMIは40位前後、「世界経済フォーラム」発表のジェンダーギャップ指数は91位といった現状です。

このような現状を変えていくためには、独立行政法人・国立女性教育会館がナショナルセンターとして単独で存在し続けることが不可欠です。目的の異なる機関との統合やその民営化は、本来の目的である独立行政法人・国立女性教育会館の機能を弱体化することになります。また国際的にも日本はジェンダー平等政策を後退させているのだというメッセージを発することになります。そうした点を私たちは危惧するものです。その意味で私たちは他の機関との統合およびその民営化に強く反対します。

2007年12月5日

日本女性学会第14期幹事会

◇松山市男女共同参画条例の運用に関する 請願採択についての要請書の報告

日本女性学会第14期幹事会では、松山市男女共同参画条例の運用に関する請願が採択されたことに抗議し、以下の要請書を作成、松山市関係部局に向けて送付するとともに、公表しました。以下に要請書の全文を掲載します。

松山市男女共同参画条例の運用に関する 請願採択について(要請)

日本女性学会は、1979年に、日本における女性学の確立を目的として設立され、日本学術会議と連携しつつ活動してきた学会です。昨年12月17日に、貴市議会が、「身体及び精神における男女の特性の違いに配慮すること」「専業主婦の社会的貢献を評価し、支援すること」等を含む項目の「松山市男女共同参画条例の運用の基本方針を明確にすることを求めることについて」を採択されたことを知り、驚愕しています。とりわけ同請願が、「松山市はジェンダー学あるいは女性学の学習あるいは研究を奨励しないこと」との項目を掲げていることに対して、日本の女性学・ジェンダー学を推進してきた学会として、私たちは、強い懸念と疑義を感じざるを得ません。

1975年の国際女性年以降、あらゆる形態の性差別の撤廃をめざす取組が、民間諸団体のみならず国連加盟の各国政府によって、地球的規模で進められてきました。日本においても、1985年の女性差別撤廃条約批准を経て、1999年の男女共同参画社会基本法制定、ならびに各地方自治体の男女共同参画条例に基づいて、男女平等政策が展開されてきました。男女共同参画社会基本法前文は、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会」、すなわち男女共同参画社会の実現は、「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と謳っています。貴市においても、2003年に「松山市男女共同参画推進条例」を制定し、同年日本女性会議の開催地となるなど、性差別撤廃をめざす世界ならびに日本全国の動向に呼応する動きをとってこられたことは、同慶の至りです。女性学・ジェンダー学は、性差別の歴史や現状の分析、性差別を生み出す社会構造と文化装置の解明等をめざして、1970年代に誕生した学問領域であり、性差別撤廃をめざす上記諸政策と連動しながら、多くの研究成果をあげてきました。例えば、女性に対する暴力や女性の健康、母子世帯の直面する困難、労働市場における男女の賃金格差やセクシュアル・ハラスメント、議会や行政の場への女性の参画等々に関する、実態調査と原因分析等です。2005年に日本学術会議が発表した報告書は、「男女共同参画社会の実現に向けてジェンダー学の役割と重要性」と題して、女性学・ジェンダー学が、日本の学術研究振興の一翼を担う重要な学問領域であること明記しています。

さらに、女性学・ジェンダー学の学習によって、多くの女性たちは力をつけて、各地域で男女共同参画に重要な役割を果たしています。

以上のことを鑑み、貴市が男女共同参画推進条例を運用するに当たって、女性学・ジェンダー学の研究と学習を阻害することなく、むしろ女性学・ジェンダー学の研究と学習を積極的に奨励し、21世紀の歴史的課題である性差別撤廃に向けて、更なる一歩を踏み出していただきたく、要請いたします。

2008年1月8日

日本女性学会第14期幹事会

■「幹事のお仕事」第5回：ホームページ担当

風間孝

HP担当幹事の仕事は、HPの更新とメールニュースの配信の二つである。

会員以外の方が学会の活動を知ろうとするときに最初にアクセスするのはHPではないだろうか。日本女性学会は、アカデミアの枠にとどまらず、ジェンダーにかかわる問題に声明を出す等の社会的活動にも積極的に取り組んでいる。学会の外に向けて発信するHP担当の役割は、重大である。

HPの定期的な更新は年3回である。ニュースレターの発行にともない、その内容を掲載する。それ以外にも随時、大会前のプログラムや、学会が出した声明など政治アクションにかかわる文書の公表、学会誌の宣伝といった役割を担っている。英語を通じた発信は「ENGLISH」のページでおこなっている。

HPが学会の外を意識したものであるなら、メールニュースは会員向けの情報発信だ。厳しい財政状況のなか、支出を削減するために学会ニュースの発行回数が年3回に減少したこと、会員に対してより迅速に情報を届けるために1年半ほど前に開始したメールニュースだが、現在、全会員のおよそ6割強にあたる、420名ほどの会員がメールニュースを購読している。これまでのところ配信数は66号である(2008年1月15日現在)。メールニュースは、単なる情報の告知を超えて、会員が会員の活動を知る機会ともなっているように思う。

「幹事のお仕事」というコラムだが、じつのところ、HP担当幹事の仕事は、HPの更新業務やメールニュースを配信するうえでのアドレスの管理をお願いしている委託契約をむすんだ業者さん、メールニュース配信の基礎となる名簿の管理をしている事務局等々の助力があって成り立つ仕事でもある。

最後に、メールニュースの配信を希望される方は、HP担当幹事の風間までご連絡してください。依頼を受けてから、遅くとも1週間以内には配信できるようにしていますので、イベント等の告知を考慮していらっしゃる場合は、余裕を持って連絡くださるようお願いいたします。

■研究会活動報告

2007年12月22日に、2007年の大会シンポジウム『バックラッシュをクイアする～性別二分法批判の視点から～』をふまえて、「06年大会シンポをうけておもうこと」というテーマで、フェミニズムとセクシュアリティに関する研究会を開催した。発題者は、発表順にイダヒロユキ、清水晶子、堀江有里、小澤かおる(敬称略)の4名。参加者は25名。

まずイダは「セクシュアリティに関わってのフェミニズムの課題：広義TGの旗の下に団結しよう」と題して、セクシュアリティを入れ込んだ、今後の運動と理論の方向性を提起した。清水からは、シンポの表題が、「バックラッシュに対抗するフェミニズムをクイアする」から「バックラッシュをクイアする」に変化したところに、批判対象であった、「フェミニズムが性的マイノリティを外部化するという構造」が再び出現した、バックラッシュとフェミニストが無自覚な共犯関係に至った等の批判がなされた。次に堀江から、女性の内部の分断と権力関係に光を当てるべき、忌憚なく批判しあうことこそ大事という立場で、シンポのあり方を批判的に総括する報告がなされた。最後に、小澤は、シンポ中とシンポの後に聞きたいいくつかの声と自分の実感と意見を紹介する形で、無意識なためにホモフォビクな言説がでて、それによって傷ついた人が出てしまったなどの問題提起をおこなった。

その後、参加者の間で、シンポのテーマや話者の決定過程、シンポ当日の話の流れ、すすめ方、フェミニズムとクイアなどについて、批判的な意見も含めて、意見交換や質疑応答がなされた。

(伊田広行)

■ 次回研究会案内

2008年大会シンポジウムに向けて「男女共同参画と格差社会」

発表者：海妻径子さん、皆川満寿美さん、
小山内世喜子さん

場所：国立社会保障・人口問題研究所
(日比谷国際ビル6階)

第4会議室日時：3月31日(月)10:00～12:30
(13:30～幹事会)

参加はどなたでも可能です。なお参加希望者は、事前に伊田広行あてにご連絡ください。

■会員主催の研究会募集のお知らせ(幹事会)

日本女性学会は会員主催の研究会に対し以下の応募要件にしたがって補助金助成をおこなっています。

<応募要件>

- 研究会の趣旨が女性学会の趣旨に合っているもの。
- 少なくとも会員に対して、公開の研究会であること。
- 研究会のタイトル、趣旨、企画者(会員個人・会員を含むグループ)、開催場所、開催日時、研究会のプログラム、全体の経費予算と補助希望額(2万円以内です)が決定していること。なお、未決定部分は少ないほど良いのですが、場所・プログラム・経費については予定=未決定の部分を含んでいても結構です。
- 学会のニューズレター・ホームページに掲載する「研究会のお知らせ」の原稿(25字×20行前後)があること。研究会の問い合わせ先を明記すること。
- 研究会終了後に、研究会実施の報告文を学会のニューズレターとホームページに書いていただきます(研究会補助費は、その原稿提出後に入金いたします。)
- 学会総会での会計報告に必要なため、支出金リストと、総額での企画者による領収書。
- 申し込みは、広報期間確保のために、原則として開催の3カ月前までに、研究会担当幹事まで、お願いいたします。詳細の問い合わせも、研究会担当幹事まで。

研究会担当:伊田広行

■お知らせ:第10回国際学術的女性会議のご案内

第10回国際学術的女性会議(International Interdisciplinary Congress on Women, WW08:ウィメンズ・ワールド2008年)が、2008年の7月3日から9日まで、スペインのマドリッドにある、Complutense大学で開催されます。前回の会議は2005年韓国の梨花女子大学で開催されました。ご興味のある方は、www.mmww08.orgの大会サイトに行き、詳細をご確認ください。尚、個人での論文発表、パネルやワークショップの開催の申請など、すべてのプロポーザルの締め切りは、2008年2月28日です。

■お知らせ■

「お知らせ」欄は幹事会および会員等からの公共性の高い情報を掲載します。その他、投稿を随時受けつけます。掲載希望はニューズレター担当者までご連絡ください。

ニューズレター担当:

伊田久美子
木村 涼子

■会員の著作紹介

- 根村直美編著『揺らぐ性・変わる医療:ケアとセクシュアリティを読み直す~健康とジェンダーIV』
明石書店、2007年10月2800円+税
- 風野寿美子著『明日を紡ぐラオスの女性:暮らしの実態と変化のゆくえ』
めこん2007年9月発行2500円+税
- 鈴木しづ子著『「男女同権論」の男——深間内基と自由民権の時代』
日本経済評論社2007年10月3000円+税
- 女性ライフサイクル研究所『ワークライフバランス社会をめざして』女性ライフサイクル研究第17号
2007年11月1日1050円(税込)
- 吉浜美恵子・釜野さおり・秋山弘子・戒能民江・林文・ゆのまえ知子(WHO保健政策部「女性の健康と生活についての国際調査」日本プロジェクト・チーム)編著『女性の健康とドメスティック・バイオレンス- WHO国際調査/日本調査結果報告書-』
新水社2007年11月1800円+税
- 伊田広行・岩川直樹編著『貧困と学力』
明石書店、2007年8月2600円+税
- 生駒夏美著『欲望する文学-踊る狂女で読み解く日英ジェンダー批評』
英宝社2007年10月4620円(税込)

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介いたします。掲載ご希望の方は、ニューズレター担当者までご連絡ください。

- 1) 会員が執筆・編集している単行本(分担執筆含む、雑誌をのぞく)
- 2) 1年以内の発行物
- 3) ご本人からお申し出があったもの
- 4) 寄贈は要件としない

ニューズレター担当:

木村 涼 / 伊田久美子